

**School of Languages, Cultures and Societies**

CENTRE FOR TRANSLATION STUDIES

**Translation Test**

**Japanese into English**

The following translation test must be completed by all students who wish to study Specialised Translation modules as part of their Masters or Postgraduate Diploma course. This test is for those students commencingstudies in **September 2025** only.

For information on current course module options please follow the course catalogue weblinks on the MA course webpages.

**Instructions**

1. **Save this document** as an ‘MS Word’ document or Pdf titled “First Name Surname JA-EN ST” (include all three pages of the document).
2. You are free to use any dictionaries and reference material you wish, however, **the work must be entirely your own**.
3. **Upload the document** in the Supporting Information (Personal Statement) section of the online application form via the applicant (or agent) portal.
4. **Complete the declaration** below to declare the translation is your own work.

**I declare that the enclosed translation is entirely my own work.**

|  |  |
| --- | --- |
| **Name:** |  |
| **Date:** |  |

**JAPANESE INTO ENGLISH TRANSLATION TEXT**

**呪はれた手**

**葛西善蔵**

　彼が、机の上の原稿紙に向つてペンを動かしてゐると、細君が外からべそ面して、駈け込むやうに這入つて来た。五つになる二女がおい／＼泣いてついて来た。――また継母にやり込められたのだ。  
　困つたものだ――と彼は眉を寄せて、ペンを置いて、細君がおろ／＼声して、例のヒステリー声して、訴へるのを聴いた。  
　それは今朝、彼の八つになる長女が、学校へ行く前に、継母の貰ひ子の十二になるお春と口争ひをしたのだ。その時長女は、「お前やばあさん（継母のこと）なんか、山の畑へ行つたきり一生帰つて来なければいゝ」、とお春に言つたのだ。それをお春は継母に告げたのだ。そこで継母は好いきつかけにして、彼の細君に当つて来たのだ。  
「たつた今のうちに皆出て行つちまへ！　誰のかまどでもない、おれのかまどだぞ、ひとのかまどを喰ひ潰してゐて、そんたらこと言ふものどもは、たつた今のうちに出て行け！」継母は斯う呶鳴り散らしたのだ。  
「何と言はれたつて、今暫らくのことだがね、辛抱するさ。そんなこと一々気にしたつて仕方が無いよ。……あんな性質の人なんぢやないか」  
　彼は斯う言つて細君をなだめにかゝつた。  
「いゝえ駄目です」と、細君はかぶりを振つた。「それはあなたは子供のことだから、何と言はれても平気で居られるか知れませんが、私は嫁ですもの。あんなにまで言はれて居る訳には行きません。それで、あなたのそれが出来あがつてお金の来る間、私は子供達をつれて実家へ行つて来ます」  
　細君は斯う言ひ張るのだ。  
　斯うなつては駄目だ――と彼も思つた。またヒステリーでもおこされては大変だと思つたのだ。それで、「では兎に角おやぢとも相談して来よう」斯う言つて、自在鍵のかゝつた炉辺をたつたのだ。  
　彼はこの二ヶ月程前に、妻と三人の子供をつれて都会から帰つて来て、父の家に居候をしてゐるのだ。そしてこの十日程前に、近所の百姓が一家をあげて北海道へ移住したあとを借り受けて、彼ひとりそこに寝泊りして、三度の食事は細君に運ばせて、書きものをしてゐるのだ。そしてそれが出来あがつて金になれば、そこへ別居すると云ふことになつてゐるのだ。併し継母の気持としては、借家も出来た以上一日も半日も、継母の所謂かまどにゐてほしく無いと云ふ訳なのだ。それで一寸したことにも目角を立てゝ当り散らすと云ふ訳なのだ……。  
　老いた父は、狭い店の帳場に背を丸くして坐つてゐた。彼の子供等が村の学校から持つて来た悪性の皮膚病をうつされて、それが全身にはびこつて悪寒がすると云ふので、綿入羽織を着て、襟巻までしてゐた。

**JAPANESE INTO ENGLISH TRANSLATION WORK**

[Please enter your translation of the above article here]